

インターネットテレビ会議の報告

兵庫県立教育研修所 納谷 淑恵

NDYSでは、インターネットテレビ会議を普段から活用して、オンライン協働学習に取り組んでいます。今回のテレビ会議は、活動の原点である阪神・淡路大震災の情報発信施設である人と防災未来センターとイラン、ロシア、台湾、トリニダードの5カ国・地域をつなぎました。防災の専門家や防災教育に関して活躍する講師を迎え、子どもたちは災害や減災について学び、現在取り組んでいる「災害安全マップづくり」の成果を発表するなど意見交換をしました。

テレビ会議は、国連国際防災戦略事務局長のサルバノ・ブリセニョ 氏より、NDYSプロジェクトへの激励のメッセージをいただき、子どもたちが読み上げる形でスタートしました。

特別講演として、国際防災復興協力機構（IRP神戸）の復興専門官 村田 昌彦 氏より、阪神・淡路大震災から学んだこととして、学校や公共施設、住宅が地震に対して十分に強くなかった。大災害から生き残るために、建物を(地震に)強くするなど災害への備えを十分にしておくことが重要であると話しました。またインドネシア・シムル島で約100年前の津波の教訓が、歌となって伝わっている自然災害の教訓を紹介。インド洋津波では、この教訓が活かされ、人的被害軽減に役立ったこと。「学校での防災教育は非常に重要です。防災の大切さを学んで、家庭や地域でできることから始めましょう。知識が命を救う！次世代へ語り継ぐ取り組みを続けて」と呼びかけました。

ロシアからはテレビ会議を通して、木造の学校校舎で地震や竜巻などの災害が起ったときを想定してつくった災害安全マップを紹介しました。トリニダード・トバゴは、洪水を想定してのマップづくりの取り組みを紹介。イランからは、地震災害を想定してのマップ作りの成果を発表。日本からは、神戸市葺合高校国際科が、神戸市内の洪水と土砂災害について調査し、市内の地下河川の危険性などを調べた成果を説明しました。「目に見えないところに危険がある、あらゆることを想定した備えが大切である」と語りました。

今回のテレビ会議の参加者はトリニダード・トバゴのエイブさん、ジアさん、アンディ先生、ロシアの国立1129学校の3・4年の生徒、オルガ先生、アーラ校長先生、イランのケラッド学校の生徒とメリヘ先生、台湾の生徒とタイ校長先生、鳳西中学校のシンディ先生、日本サイドは人と防災未来センターのガイダンスルームから約80名、海外メンバーを合わせ、合計200名ほどがつながりました。国連や防災関係の方々また、遠くは愛知県からの参加もありました。

本当にたくさんの方々のご協力により開催することができましたことに感謝いたします。

次回のテレビ会議は、5月3日—5日に開催の「防災世界子ども会議 2007 in あいち」での全体会で行います。国内外の多数のみなさまの参加をお待ちしています。

発表報告　　—災害安全マップづくりからの学び—

神戸市立葺合高校 国際科 3年 加藤 言人
木梨 敬之

私たちにとって、神戸周辺の土砂災害、水害について知ることは、とても意味のあることでした。この課題を進めるうえで、私たちが学んだことはたくさんあります。その一つとしては、宇治川のことがあげられます。この川は、中央区を流れています。そして、その河口は実は、皆がそう知らないだけで、見たことがある場所です。その河口は、ハーバーランドのモザイクとコーナンの間にあります。ですから、もし、宇治川が大雨によって氾濫、などということになれば、ハーバーランド一帯が、浸水するということになります。また、宇治川とおなじように、須磨区を流れる妙法寺川が氾濫を起こした場合、板宿駅周辺は浸水することになります。これらは、多くの人が、日常生活で利用する地域です。よって、洪水、川の氾濫などは、私たちの身の回りで起こりうることなので、河川周辺の浸水危険地域を知り、それに備えることは、とても重要であると感じました。

また、私たちは、神戸には、たくさんの地下川が流れていると知りました。これは、つまり、私たちが、この河川の存在にさえ普段は気づけないということです。そして、このマップを見てもうとわかるように、これらの川は簡単に氾濫してしまいます。この危険さは、決して、想像し難いものではないと思います。これは、つまり、自分の家は、河川のそばにないから洪水による被害は受けるはずはない、という考えが必ずしも当たっている訳ではないということです。よって、私たちは、常に、そのような自然災害に気をつけていなければならぬのです。

今回の課題から、私たちは常に自然災害と隣りあわせの生活をしていることを知りました。今回学んだことを生かし、これからは自然災害に対しての準備を怠らないようにしていきたいと思います。

What We Learned From Making Disaster Safety Map

Kobe Municipal Fukiai High School Gento Kato
Takayuki Kinashi

It was very resourceful experience for us to know about the situation of flood and landslide disaster in around Kobe. We had many discoveries. For example, we researched about Uji River. It is the river which flows in Chuo-ku. Many of us already know about the mouth of the Uji River, however we didn't recognize that. Actually the mouth is in Harbor Land, between Mosaic and Home-center Ko-nan. So, if the Uji River is overflowed, entire Harbor Land will be drowning out. As same as Uji River, if Myohoji River is overflowed, area around Itayado station will be drowning out. These areas are the area that many people usually use. Therefore, it is very important to know about the danger of the river, because probably it will happens very close place of us.

Also, we found that there are many rivers in underground in Kobe. It means that usually we don't even know about the existence of these rivers. And, in Hazard map, many of these rivers are easy to be overflowed. You can imagine that how dangerous this fact is. So if some people think their house is not going to be damaged by flood because they think they have no river near the house, some times it's not true. We should always care about the danger of any type of natural disasters.

Finally, from this map making of flood and landslide disaster hazard map, we learned there always many dangers exist just beside us. We should prepare about the disaster which probably comes soon.

Safety map from Russia



Moscow school 1129



Students of 3-d and 4-th
grades prepared their
Safety maps.

They presented
their projects
on the videoconference.



Students of 4-th grade
made their map from fabrics.
They use pencils,
their photoes and applications.



The 3-d grade students
made their plan of evacuation from school.
They used: pencils, markers and their own photoes.



9-th grade students
helped elementary
school students to translate.



Students from the 3-d grade and their safety map.



Students from the 4-th grade and their safety map.



Natural Disasters

Presented by:
Abraham Fergusson
Natural Disasters Youth
Ambassador
Youth Facilitator NDYS



Water Education

- ◆ Began with the International Year of Water
- ◆ A National Debate and Public Speaking Competition was held.
- ◆ Participants were from UNESCO Clubs, ASP-net Schools, the Cadet Corp and community groups.
- ◆ It was widely published, throughout the national community by all media.



TRINIDAD AND TOBAGO - LOCAL ACTION FOR GLOBAL CHALLENGE

CHALLENGES,

- ◆ Hurricanes
- ◆ Floods
- ◆ Landslides
- ◆ Earthquakes
- ◆ Forest Fire
- ◆ Tornadoes
- ◆ Tsunamis



- FLORA 1963 which flattened Tobago's infrastructure and more than 7000 lives were lost in Cuba and the Dominican Republic

- IVAN 2004 when extensive damage was done to Grenada's physical infrastructure and Jamaica's agricultural sector was devastated
- EMILY 2005 where to date Grenada and Jamaica have not yet recovered \$110 million in damages and right here in Mexico damages were estimated at \$400 million



FLOODS

- ◆ Prevalent in the Caribbean
- ◆ Prolonged and/or high volume of tropical rainfall
- ◆ Millions in damage to residential and infrastructure each year
- ◆ A result of storms

TAKE NOTE LADIES, GENTLEMEN AND STUDENTS, NATURAL DISASTERS DO NOT TAKE HOLIDAYS

SOLUTIONS

- **NATIONAL DISASTER SAFETY MAP**
 - "education for all" must include natural disasters education
 - understanding the importance of mitigation
 - interest within the community
 - knowledge of disaster management
 - learning from past disasters
 - the importance of saving lives

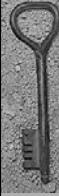


SAFETY MAP

Trinidad Map

Tobago Map



FOCUS

- ◆ Waterways
- ◆ Emergency Shelters
- ◆ Hospitals
- ◆ First-Aid Stations
- ◆ Communities
- ◆ Highways
- ◆ Main Roads
- ◆ Narrow Allies
- ◆ Park or open spaces
- ◆ Fire Department
- ◆ Police Stations
- ◆ Assembly points
- ◆ Schools

- ◆ Why? Mitigation and preparedness can save lives
- ◆ Using information on the map community members, families can evacuate weather organizations can come to the affected areas.
- ◆ Children who maybe home alone can help themselves or others on the spur of the moment, or perhaps being passengers on a school bus with one adult, the driver, will be aware of actions they can take

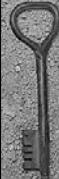


LIFE AFTER DISASTERS

*Recovery

*Re-construction

- ◆ We have developed a website to be used as an educational tool for all interested in learning and sharing information from others
- ◆ A Blog will soon be added for those wanting to post information
- ◆ Let us know your survival method.
- ◆ It might save a life, or a community.
- ◆ We are working with WASH
- ◆ IEARN Global
- ◆ Local Water Agency
- ◆ Fire Services
- ◆ UN Youth volunteers
- ◆ Youth Service Day, Taking it Global 21st-23rd April.
- ◆ The Ministry of Public Utilities and the Environment



NETWORKING

- ◆ Meeting with Head of State
- ◆ Our Prime Minister
- ◆ Minister in Japan






THE WAY FORWARD

Trinidad and Tobago, as well as the wider Caribbean need to work on our National and Regional Safety Map, in preparation for our Global Safety Map, by having Prep-Com's:

before hosting of the:-

Natural Disasters Youth Summit 2008.



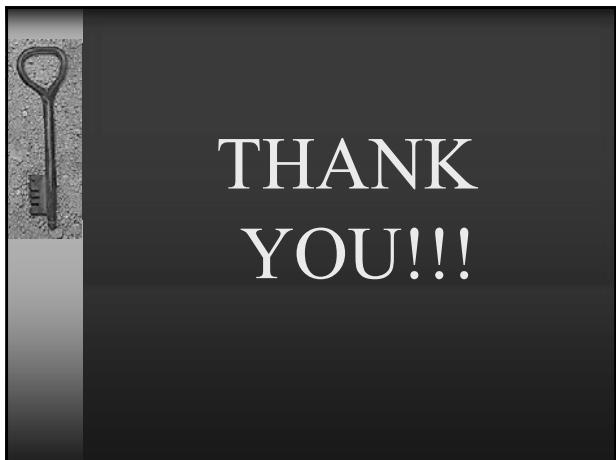
NATURAL DISASTERS YOUTH SUMMIT DECLARATION:

As teenagers, we devote ourselves to protecting our Mother Nature:

By

Connecting the international and local communities, and joining this campaign we hope to generate a global vision and reduce the damage of natural disasters. We expect that everyone can work hand in hand to minimize:

,



テレビ会議「防災世界子ども会議 2007in 神戸」

Video Conference " NDYS 2007 in KOBE "

2007年3月4日(日) Sunday, 4th March, 13:30—15:40



iran、ロシア、台湾、トリニダード・トバゴ、日本がつながり「災害安全マップづくり」の報告と意見交換をしました。





国連国際防災戦略 UN/ISDR よりメッセージ
サルバノ・ブリセニョ 氏



記念講演： 国際防災復興協力機構（IRP 神戸）
復興専門官 村田 昌彦 氏



スリランカ /ネパールでの防災教育の取り組み



パキスタンでの防災教育の取り組み



防災世界子ども会議プロジェクト実行委員会 メンバー

2007年2月8日現在

顧問	兵庫県副知事 斎藤 富雄
顧問	人と防災未来センター長 河田 恵昭
顧問	ひょうご e-スクールコンソーシアム会長 光森 史孝
顧問	iEARN-USA 代表 Edwin H, Gragard
顧問	ユネスコパリ 防災セクション部長 Badaoui Rouhban
顧問	京都大学大学院地球環境学舎 助教授 Rajib Shaw
実行委員長	iEARN -Japan (JEARN) コーディネータ 岡本 和子
副実行委員長	iEARN -Japan (JEARN) コーディネータ
	兵庫県教育研修所 納谷 淑恵
実行委員 国外	iEARN -Taiwan カントリーコーディネータ Doris wu
	iEARN -Trinidad and Tobago
	カントリーコーディネータ Gia Gaspard Taylor
	iEARN -Iran コーディネータ Mariam Mokhtari
	プロジェクトハーモニー アルメニア Nunik Nahapetian
実行委員 国内	兵庫県教育委員会 教育企画課 上谷 良一
	兵庫教育大学学校教育研究センター 成田 滋
	兵庫県 国際協力課 藤井 英映
	神戸大学海事科学部 国際海事教育研究センター 石田 憲治
	京都大学大学院地球環境学舎 博士課程 塩飽 孝一
	立命館大学 国際関係学部 中野 元太
	元朝日新聞社 福田まさな
	遠隔教育研究会 川村 洋介
	ユニセフパークプロジェクトファシリテーターグループ代表 佐々木 健一郎
	箕面学園保育専門学校 福田 宏子
	神戸・子どもと教育ネットワーク 池見 宏子
	NPO 法人 グローバルプロジェクト推進機構 JEARN 薮内 昌彦
	NPO 法人 グローバルプロジェクト推進機構 JEARN 福井 良子
会計	大阪税理士事務所 森田 寛子
監査	兵庫県立大学大学院環境人間学研究科 博士課程 和崎 宏

資料

防災世界子ども会議2007 in あいち

Natural Disaster Youth Summit 2007 in Aichi



● 会期：2007年5月3日(木)～5日(土)
● 会場：愛知県美浜少年自然の家
● 主催：JEARN防災世界子ども会議2007 in あいち実行委員会

- 共 催 …… 財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構、国連教育科学文化機関(ユネスコ)、神戸大学 海事科学部附属国際海事教育研究センター、神戸大学都市開発研究センター、JICA中部 京都大学 大学院地球環境学堂 国際環境防災マネジメント論分野、iEARN(アイアーン International Education and Resource Network)
- 特別協力 …… NICT(独立行政法人 情報通信研究機構) 言語グリッドプロジェクト
- 後 援 …… 内閣府、総務省、外務省*、文部科学省、環境省*、愛知県、兵庫県、名古屋市、神戸市、愛知県美浜町、愛知県教育委員会、兵庫県教育委員会、ひょうごスクールコンソーシアム 名古屋市教育委員会、愛知県美浜町教育委員会、神戸市教育委員会、兵庫県私立中学高等学校連合会、国連国際防災戦略(UN/ISDR)、国際防災復興協力機構(IRD) アジア防災センター(ADRC) 国際連合地城開発センター(UNCRD) 兵庫事務所、国連人道問題調整事務所(UNOCHA)神戸、国際連合大学高等研究所、(財)愛知県国際交流協会(財) 兵庫県国際交流協会、(財)名古屋国際センター、JICA兵庫、兵庫ニューメディア推進協議会、NPO法人はりまスマートスクールプロジェクト ユニセフパークプロジェクトファシリテーターグループ、兵庫NIEネット、遠隔教育研究会MINE、神戸・子どもと教育ネットワーク、フジテレビジョン (*申請中)
- 参加予定期 …… 11カ国・地域 (アメリカ、イラン、インドネシア、オーストラリア、スロバキア、台湾、チェコ・トルコ、ネパール、日本、ロシア) ※海外からの参加者 約45名

*この事業は、独立行政法人日本万国博覧会記念機構の助成金を得て実施しています。

防災世界子ども会議(NDYS)とは

阪神・淡路大震災10年をきっかけに、「大震災の教訓を未来へ・命の尊さを考えよう!」をテーマとして、世界の学校・子どもたちが、インターネットを活用して、世界のさまざまな自然災害の教訓をつなぎ、国際交流を通して情報交換しながら、防災について学び合い、語り合い、命の大切さを考える「会議」を目指してスタートした、「新たな防災教育」の試みです。



○ NDYS2006 in台湾 宣言発表
「私たちの環境を大切に 何が出来るのかを考え 身近なものを大切に」

●プログラム

5月3日(木)

9:00~12:00

- 参加者登録
- リハーサル

● 昼食

13:00~19:00

- オープニング パフォーマンス (つどいの広場)
名古屋女子大学中学校高等学校
吹奏楽マーチングバンド部
- 開会式 (講堂)
1. 開会宣言 4. メッセージ披露
2. 開会挨拶 NDYSユース代表 5. 参加国の紹介
3. 来賓挨拶 6. 大会関係者の紹介
- 分科会 (各研修室)
小中高大学と各研修室に分かれて活動報告会
- 國際テレビ会議 全体会 (講堂)
1. 参加できなかった学校の活動報告会
2. 夢を奪う災害 -津波-
インドネシア・バンダアチエの
子どもによる津波体験
- 美浜少年自然の家 災害安全マップづくり
班作り、災害マップ計画と
「美浜少年自然の家」敷地内下見、準備
- 歓迎キャンプファイヤー (ロマンの広場)

● 消灯・就寝

21:00

5月4日(金)

9:00~12:10

- 当日参加者登録
- 災害安全マップづくり (体育館)
- 災害安全マップ発表会
- 講演
「環境と防災のかかわり
～災害安全マップの意義について～」
名古屋大学大学院環境学研究科附属
地震火山防災研究センター所長
山田功夫 教授
- 災害安全マップコンクール審査発表&表彰式

● 昼食

13:00~19:00

- NPO法人ジェイアーン主催
国際教育みらい会議2007[愛知]に参加
- アイアーンプロジェクトを体験しよう!
ティベア、ねがい、アートマイル、
ありがみプロジェクト他
- 「キッズ防災バッグ」に備えたい食品を選ぼう!
防災インスタント食品、お菓子、飲料他
- 交流 -お国自慢発表-
自分の国の特徴的な文化を披露!
民族衣装で参加しよう!

● 消灯・就寝

21:00

5月5日(土)

9:00~12:00

- 当日参加者登録
- NDYSおもしろ科学実験教室
「薬品なしで自然の不思議を実験解明」
群馬県桐生市立南中学校 丹羽孝良 教諭他

● 昼食

13:00~17:00

- NDYS2007宣言 (講堂)
母語で各國代表が壇上で宣言する
- 閉会式
1. ビデオ放映
「NDYS会議1日目、2日目活動報告」
全員で合唱
「ねがい～NDYS/バージョン～」
2. 各国コーディネーターのスピーチ
3. 「NDYS大使 認定書」授与
4. 総評
ラジブ・ショウ NDYS顧問
京都大学 大学院地球環境学堂 助教授
5. 閉会宣言
- フェアウェルパーティー

●参加申し込み受付

※1※2※3※4

■全行程参加 (5月3日~5月5日) ※5※6

参 加 費	10,000円	2泊3日の宿泊費・食費(7回分) 及び 資料費を含む(税込み)
-------	---------	---------------------------------------

■当日参加 ※7

参 加 費	無 料	資料費: 2,000円
-------	-----	-------------

※1) 国内参加者は健康保険証書写しを持参してください。

※2) 海外参加者は海外保険にあらかじめ各自で加入したうえでご参加ください。

※3) 会期中は参加者全員レクリエーション保険に入りいたします。

※4) 交通費・保険料・オプション参加費は表示金額に含まれておりません。

※5) 5月3日の朝食及び5月5日の夕食は表示金額に含まれておりません。尚、食事メニュー等の詳細につきましては、「愛知県美浜少年自然の家」ホームページをご参照ください。

※6) 宿泊施設のご利用は4月29日~5月5日まで可能です。(収容人数を超えた場合はご利用できない場合がありますので予めご了承ください。)

※7) 当日参加者で、資料が必要な方は資料費2,000円が必要となります。

●インフォメーション

「NDYS2007 in あいち」に関する詳細情報はこちら

- ホームページURL
<http://ndys.jearn.jp/2007/index.html>

- お問い合わせ
〒651-0085 神戸市中央区浜辺通4-1-23三宮ベンチャービル503
JEARN神戸事務所内 NDYS事務局
TEL & FAX : 078-251-6833 E-Mail : ndys@jearn.jp

宿泊施設に関する詳細情報はこちら

宿泊地: 愛知県美浜少年自然の家

住 所: 愛知県知多郡美浜町大字小野浦字宮後1-1

T E L : 0569-88-5577 F A X : 0569-88-5385

U R L : <http://www6.ocn.ne.jp/~mihama/>

郵便物のお取扱いはこちら

〒454-0877 名古屋市中川区八田町1902番地

株式会社矢木楽器店「防災世界子ども会議2007 in あいち」事務局

代表取締役社長 矢木敏喜 死て

※お電話での応対は致しかねますので予めご了承下さい。

◇ボランティア募集集中: 4月29日~5月6日までのボランティアを募集しています。各国からの児童・生徒・先生と共に生活をしてみませんか? お問い合わせ先 ndys@jearn.jp

第3回「防災世界子ども会議2007 in あいち」

参加申込書(FAX用)

申込日: 平成19年 月 日

受付FAX番号: 078-251-6833

お申込みの前に

- FAXで申込まれる方は必要事項をご記入の上 この用紙をご送信ください。また、郵送を希望される方は上記インフォメーションにある「郵便物取扱いはこちら」の住所宛に送付してください。
- 記入枠が足りない場合は、この用紙をコピーしてお使いください。
- ご家族で参加の場合は、全員の名前を記入してください。
- 会期中の詳細情報はホームページをご確認ください。

No.	参加者氏名 (ローマ字)	性別	年齢	参加希望 (いづれかに○をつけてください)	学年・保護者・一般 (わかりやすく記入してください)
	ローマ字 () 氏 名			全行程参加・当日参加	
	ローマ字 () 氏 名			全行程参加・当日参加	
	ローマ字 () 氏 名			全行程参加・当日参加	
● 参加者住所 (代表) 〒					
T E L : () F A X : () E-Mail :					

NDYS2008 の会議はトリニダード・トバゴで開催予定！

e Teck sponsors launch of
"The Culture of Water"



In 2008, Trinidad and Tobago will host the Natural Disasters/ Risk Management Youth Summit, under the theme, the 'Culture of Water.' Some 300 international youth delegates are expected to participate in this event, which is being held in this country for the first time. In the run-up to the Summit, the International Education and Research Network (iEARNTT); and the Trinidad and Tobago National Commission for UNESCO, Ministry of Education, launched the Summit which was followed by a workshop on Natural Disasters/ Risk Management, at the Rudranath Capildeo Learning Resource Centre.

Evolving TecKnologies and Enterprise Development Company Limited, e Teck, was pleased to lend support to these preliminary efforts to bring Risk Management in natural disasters to the fore, for both primary and secondary school students, many of whom participated in a mapping exercise after the launch formalities. The workshop was facilitated by several speakers from WASA, TTEC, the Forestry Division, the ODPM, the Trinidad and Tobago Regiment and the Fire Services. Representatives from the Ministries of Education and Public Utilities and the Environment, were on hand as well to share their knowledge and experience, and to work with over 100 students and teachers as they prepared their 'maps to survival' and were introduced to ways of coping with the effects of and manage better in natural disasters.

Planning for next year's Summit is already underway and is being coordinated by Ms. Gia Gaspard Taylor of iEARNTT.



Dellon Mathison, recited his own composition, 'Hurricane.'

RIGHTING THE FUTURE 

Don Miguel Road Extension, El Socorro,
San Juan, Trinidad and Tobago -
Tel: 868 675 1989 • Fax: 868 675 9125
Website: www.e-teck.co.tt

『NDYS2008 in トリニダード・トバゴ』に向けて、トリニダード・トバゴ（カリブ海）では、阪神・淡路大震災を忘れないようにと、1月17日に盛大なキックオフ会が開かれました。

All went well at the opening ceremony. We were expecting 28 schools/groups but in attendance were 4 unesco groups, 28 unesco schools, and 17 other schools wanting to be involved total of 185 in attendance.

The Director with responsibility for natural disasters of the Association for Caribbean States also addressed the audience, and distributed resource material. the committee will go to Tobago perhaps on January 31st.

減災への思い込み



防災マップ展開く

神戸世界の被災児童ら力作

「世界の子どもたちがつくった災害安全マップ」中央区駒浜海岸通一の人

と防災未来センターが始まった。地震や台風、竜巻なら自然災害を経験した十カ国の中学校、高校が出演。災害の被害を最小限に抑えるため、地域の危険個所や避難場所が自立つよ工夫を凝らした二十三点が並ぶ。

「防災世界子ども会議プロジェクト実行委員会」（神戸市）の主催。

イラン・テヘランの小学校は地図上の病院や学校の場所を電飾で点滅させ、ロシア・モスクワの小学校はインテリアとして使えるよう色布の組み合わせが美しい「キルトアート」風に仕立てた。名古屋市立柳小学校はすこいくんしても遊べるようにし、兵庫県内からは神戸市立養合高校、県立川西高校宝塚良元校が、まちをくまなく歩いた成果を披露している。

三月十八日まで、同四日午後一時半から、同センターと各国の子どもたちをインターネットで結ぶ国際会議が開かれる。

（石崎勝伸）

各國の子どもたちが工夫を凝らした災害安全マップ=人と防災未来センター

世界の子ども防災討論

神戸 5か国・地域 ネットで連携

日本、ロシアなど4か国

と台湾の子どもたちがイン

ターネットを通じ防災への

取り組みを発表するテレビ

会議「防災世界子ども会議

2007 in 神戸」が4日、

神戸市中央区の人と防災未

波の教訓が歌になって伝わ

来センターで行われた。

会議の冒頭、国際防災復

興協力機構（IRP）の村

田昌彦・復興専門官が、イ

ンドネシア・アチエ州シム

ル島で、約100年前の津

震や竜巻で木造校舎がどう

なるか考えたことを発表。

神戸市立葺合高校の生徒

も、市内の地下河川の危険

性などを調べた成果を説明

した。同校2年の加藤言人

君（17）は「見えていないから安全と思うのではなく、あらゆることを想定した備えが大切」と語った。

子ども会議実行委の岡本和子代表は「互いの顔を見ながら防災を語り合うことは世界の子どもたちの連携の素地になるはず」としている。

世界の児童・生徒が作った 「災害安全マップ」展

世界の小・中学生や高校生が作った「災害安全マップ」を集めた展覧会が、神戸市中央区の人と防災未来センター・未来館1階ロビーで開かれている=写真。18日まで。ロビーのみの入場は無料。

18日まで・人と防災未来センター
11カ国・地域から出展

阪神・淡路大地震の10周年をきっかけに「震災の教訓を未来に伝え、命の尊さを考えよう」をテーマに誕生した「防災世界子ども会議（NDYS）」のプロジェクト実行委員会（岡本和子代表・事務局、神戸市中央区浜辺通）が企画したもので、大きな災害を体験した世界の11カ国・地域から、20数点の作品が展出されている。自分たちの身の回りにある危険な場所などを調査して地図



にし、災害が発生した場合に役立てようという試み。

け、それぞれに写真と説明文を添付して、大きなマップを作り上げた「カ作」。

どもたちが参加して開かれたのを皮切りに、昨年は台湾で開催された。今年は今月4日に人と防災未来センターで、インターネットを通じたテレビ

いたりしながら、防災や減災について学ぶ。マップづくりは、こうした活動の一環で名国の学校教育の中に浸透しつつある。

ア、学校、警察、病院を赤、青、ピンクの豆球で電飾、一目で分かるようになしたもの（イラン）など、それぞれに工夫がこらされており、お国柄がしのばれる。

「防災世界子ども会議」は、平成17年3月に淡路島で12カ国・地域から子供の研究者の話を聞

会議に次いで、5月3日から5日まで、愛知県美浜少年の家で行われる。

「世界の子どもたちがつくった災害安全マップ展」報告書

発行日 2007年3月31日
編集者 岡本和子
納谷淑恵
事務局 防災世界子ども会議プロジェクト実行委員会
〒651-0085
神戸市中央区浜辺通4-1-23
三宮ベンチャービル503 JEARN 神戸事務所内
電話 078-251-6833
<http://ndys.jearn.jp/>
ndys@jearn.jp

印 刷 株式会社 ルネック

無断転送をお断りします。

